

平群

Heguri

≡議会だより

6月定例会

No.262

平成29年8月1日

発行:奈良県平群町議会

第3回定例会(6月)

議決結果	2
質疑あれこれ	3
文教厚生委員長報告	4
議会の動き・議員提出議案	5
同意案件	6~7
町政を問う! 一般質問	8~13
町の話、県正副議長研修会	14



～ボールプールで遊ぶ子どもたち～

親子DEうきうきタイム!! (総合スポーツセンター) 6月24日開催

第3回定例会 こんなことが決まりました



第3回定例会は6月6日～16日まで11日間の会期で開かれました。

初日は、町長提出の23案件を審議し即決。議員提出の国民健康保険条例の一部改正議案と住民からの「国民健康保険税の引き下げを求める請願書」は文教厚生委員会に付託（7日に審議）しました。

一般質問は12、13日に行われ、11名の議員が町政課題について質問・提言しました。

最終日は、文教厚生委員会の審査結果報告を受けて採決を行い、議員提出の意見書1件が上程され審議・採決を行いました。

議決結果賛否一覧

○賛成 ●反対（議長は、可否同数のとき議案の可否を決定します）

提出区分	議案名	議決結果	山本隆史	城内敏之	井戸太郎	森田勝	稲月敏子	植田いづみ	山口昌亮	高幣幸生	窪和子	下中一郎	馬本隆夫	山田仁樹
町長提出議案	専決処分の承認を求めることについて（平成29年度平群町住宅新築資金等貸付事業特別会計補正予算（第1号）について）	原案承認	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	専決処分の承認を求めることについて（平成29年度平群町国民健康保険特別会計補正予算（第1号）について）	原案承認	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	平群町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業所使用料徴収条例の一部を改正する条例について	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	平群町介護保険条例の一部を改正する条例について	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	平群町国民健康保険税条例の一部を改正する条例について	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	公平委員会委員の選任に同意を求めることについて	原案同意	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	教育委員会委員の任命に同意を求めることについて	原案同意	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	教育委員会委員の任命に同意を求めることについて	原案同意	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	農業委員会委員の認定農業者過半数要件の例外規定適用について同意を求めることについて	原案同意	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	農業委員会委員の任命に同意を求めることについて	原案同意	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	農業委員会委員の任命に同意を求めることについて	原案同意	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	農業委員会委員の任命に同意を求めることについて	原案同意	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	農業委員会委員の任命に同意を求めることについて	原案同意	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	農業委員会委員の任命に同意を求めることについて	原案同意	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	農業委員会委員の任命に同意を求めることについて	原案同意	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	農業委員会委員の任命に同意を求めることについて	原案同意	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	農業委員会委員の任命に同意を求めることについて	原案同意	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	農業委員会委員の任命に同意を求めることについて	原案同意	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	農業委員会委員の任命に同意を求めることについて	原案同意	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	農業委員会委員の任命に同意を求めることについて	原案同意	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
請願	国民健康保険税の引き下げを求める請願書	不採択	●	●	○	○	○	○	○	●	●	●	●	
議員提出議案	平群町国民健康保険税条例の一部を改正する条例について	否決	●	●	○	○	○	○	○	●	●	●	●	
	ギャンブル等依存症対策の抜本的強化を求める意見書（案）	原案可決	○	○	○	○	●	●	●	○	○	○	○	

議長は採決に加わりません

質疑あれこれ

6月議会に上程された議案
及び質疑を紹介します。

滞納額、返済終了の件数と人数はどのようになっているのか。

答弁 地方債の償還残高284万4318円、滞納は40件、21人で、利息を含めて約1億1200万円。また、返済終了件数は313件、176人になっている。

承認5号 専決処分 平成29年度国民健康保険特別会計補正予算(1号)

前年度収支確定による赤字分1億1444万3千円を繰上充用するためのものです。

質問 決算見込みでは実質収支が2億5600万円の赤字とのことだったが、実際は1億1400万円の赤字で1億4千万の乖離がある。原因は何か。

答弁 1億4600万円の乖離については、見込みが甘かったと思っている。一番の原因は加入者の数が激減したこと、1人当たりの医療費が前年度を下回ったことなどによるもの。

税の前提が間違っていたのだから、町としても引き下げ議案を提出するのが当たり前の態度ではないか。

答弁 医療費の伸びが予測より低かった結果、赤字が少なくすみ、数年かかる赤字の解消が少し早くできるかなと言ったことも含め、明るい兆しが見えてきたと考えている。

質問 もし昨年の段階で1億2千万円程度の赤字予測だった場合、いくら増税したのか。

答弁 乖離が大きかったことから検討したが、下げることによって、赤字になる可能性も少なくなる。結果として赤字は1億数千万円になったが、27年度単年度は2億円近い赤字が出たこともふまえて、なにが起るかかわからない中で、出来るだけ早く健全財政にしたいということから、予測が1億円の赤字であっても、これ(3月議会の増税額)に近い数字になったと思う。



議案25号 特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業所使用料徴収条例の一部改正

子ども子育て支援法施行令の一部改正に伴い、こども園の保育料軽減を拡充するものです。

具体的には、①こども園の使用料について、これまで2分の1に軽減していた町民税非課税世帯の第2子の使用料を無料にする。②町民税所得割課税額7万7100円以下のひとり親世帯のこども園の使用料を、町民税非課税とほぼ同等の使用料にする。③教育標準認定の使用料について、町民税所得割課税額7万7100円以下のその他世帯(ひとり親世帯等を除く)の使用料を12・4%引き下げるものです。

議案26号 介護保険条例の一部改正

1号被保険者の介護保険料、消費税10%を条件に、平成29年度から基準額に対する乗率を第1段階0・45→0・3、第2段階0・75→0・5、第3段階0・75→0・7にする予定だったが、消費税が上がらなかったため、乗率

を現行のまま据え置いたためのものです。

質問 4月1日からの実施なので、本来は3月議会に提出すべき議案だが。

答弁 本来でしたら3月議会に上程して、4月1日に備えるというのが適正な時期というのをお述べのとおりです。

やはり、各職員が条例等の点検をして適正な時期に条例改正をしていくよう、今後、意を払って、注意を促していきたいと思っています。



ゆめさとこども園 プール遊び

文教厚生委員長報告

発議第4号 平群町国民健康保険条例の一部を改正する条例について

本条例は、今年3月の定例会において「平群町国民健康保険条例の一部を改正する条例」が可決した国民健康保険税（国保税）は昨年度に比べて、総額で約2億5千万円の増税となった。今回の改正案は、それを約1億1100万円減税するもの。国保会計の状況から増税はやむを得ないが、加入者の負担を抑え、人口流出にもつながらない増税額にすべきとのことから改正するものです。

質問 当初予算と決算額と、約1億4千万円の乖離が生じた要因は。

答弁 医療費が見込みより減り、医療給付が下がった。また、国庫や療養給付費交付金など予想以上に交付された。2億5千万円の赤字と想定していたが約1億1400万円の赤字決算と

なった。

質問 平群町の国保、社会保険等の加入者構成は。

答弁 平群町の約40%が国保の加入世帯となり、残りが他の社会保険。

質問 一般会計からの繰り入れへの考えはないのか。

答弁 一般会計から繰り入れは、他の健康保険加入者からすれば、二重払いのようになるので、税の公平性からみてどうかと考える。

質問 健全な国保財政を保つための考えは。

答弁 平成30年以降の広域化で、負担金や保険料率が変わる。その時点で慎重に考える。財政を黒字にすることが大前提と考える。

質問 町は、議会などで「29

年度の国保会計を赤字にしないために最低限必要な額の増税にした。累積赤字を解消するのではない」と答弁。今議会の発言は矛盾するのではないか。

答弁 平成29年度は、これ以上の赤字を作らないということで提案した。赤字額が半分以下になったが、なくなったわけではない。赤字を増やさないという考え方である。

質問 大幅な増税が3月議会に決定したが、その根拠となる決算額が、想定と大きく乖離をした。前提条件が壊れたわけだが、見直しや検討をされるのか。

答弁 1億1400万円の累積赤字があり、この赤字が最終的には被保険者にかえる。28年度の決算額だけをみて、29年度以降の変更はしない。

討 論

国保会計は、平成28年度決算は1億1400万円の赤字となったが、いまだ1億円を超える赤字が残る。国保の黒字化が最優先。広域化時、町独自の激変緩和も赤字ではできない。将来の財政を考え、財調基金の保

有も考えるべき。過去に4年連続値下げで現状になった。繰り返さないためにもこの決議には反対する。

昨年度の国保会計が確定して、赤字額が想定より1億4千万円下回った。3月議会で可決した前年より1.6倍もの国保税の引き上げ、総額2億5千万円の増税根拠、前提が崩れた。赤字額が大幅に縮小した以上、29年度については赤字を出さないことに照準を合わせて縮小した分、住民負担を減らし税率を見直すべき。よって本条例案には賛成をする。

採決の結果、発議第4号は否決すべきものと決しました。

請願第1号 国民健康保険税の引き下げを求める請願について

請願の要旨は、平成29年度から前年度の1.6倍にもなる国民健康保険税の引き下げを求めるものです。

主な質疑では、紹介議員に対して、署名に関する年齢構成や国保加入について質され、署名

は2126筆であり、年齢層では加入者が圧倒的に多い。加入者以外や75歳以上の人もいる。とくに西山間、農家の方が多いとの答弁がありました。

討 論

累積赤字をかかえ、今後の健全財政が見込めない。本国保会計の黒字化が大事である。平成30年から国保広域化もあり、本町の国保財政の推移を見るべき。引き下げができる時に議論をすべき。採択には反対する。

国税徴収法で滞納処分の執行停止要件を満たすほどの重税。住民生活の破たんや滞納も生み出す。赤字も2億5800万円予想が1億1400万円の赤字にとどまった。増税額の前提が崩れたことから、見直すべき。また、2100筆を超える声をしっかりと受け止めるべき。請願には賛成をする。

採決の結果、請願第1号は、不採択すべきものと決しました。

文教厚生委員会

委員長 井戸 太郎

議会の動き

議会運営委員会

5月24日(水)

※平成29年平群町議会第3回定例会の議会運営について

駅周辺整備事業特別委員会

5月30日(火)

※駅周辺整備事業の進捗状況について

公共交通対策特別委員会

6月26日(月)

※コミュニティバス運行事業の現状報告について

全員協議会

7月14日(金)

※行政財産の適正管理について

請願文書表

国民健康保険税の引き下げを求める請願書

受理番号 第1号

受理年月日 平成29年5月24日

要 旨

平成29年度から前年度の1.6倍にもなる国民健康保険税を引き下げること

理 由

平群町は今年度、国民健康保険税(国保税)を前年度の1.6倍(1世帯平均約7万7000円)に引き上げ、県内で最も国保税が高い自治体となりました。

この結果、例えば、年間の年金収入が250万円の2人世帯(65歳以上)では国保税の負担が9万4700円増えて23万9100円になります。

また、年間給与収入350万円の4人世帯(40代夫婦と子ども2人)では負担が21万9800円増えて53万3000円になり、国保税のほか、所得税や住民税、年金保険料を差し引いた可処分所得は月20万6287円になります。

「国税徴収法」は、税金などの滞納者に対して「滞納処分を執行(給料等の差し押さえなど)することによって生活を著しく窮迫させるおそれがあるとき」は「滞納処分の執行を停止することができる」とし、その基礎となる金額を「1ヶ月ごとに納税者本人につき10万円、生計を一にする親族があるときは、これらのもの1人につき4万5千円を加算する金額」(同法施行令34条)と定めています。

この法律に照らせば、先の4人世帯の場合、差し押さえ禁止の基礎となる額は23万5000円ですが、可処分所得はそれを3万円近くも下回ります。今回の増税は、国税徴収法に反した国保税率ということになり、国保加入者の生活を著しく窮迫させるものです。

請願者の住所及び氏名

平群町緑ヶ丘6丁目8番21号 西尾悦治

平群町初香台2丁目2番18号 鈴木 進

紹介議員 山口 昌亮 植田 いずみ

稲月 敏子

付託委員会 文教厚生委員会

議員提出議案

平群町国民健康保険税条例の一部を改正する条例について

提出者 山口 昌亮

賛成者 森田 勝

(否決)

ギャンブル等依存症対策の抜本的強化を求める意見書(案)

提出者 窪 和子

賛成者 高幣 幸生

(可決)



新制度のもとで 農業委員 14氏の任命に同意

これまで選挙で選ばれていた農業委員会委員が法律の改正で、市町村長が提案し、議会の同意を経て任命することになりました。平群町では、今年 7 月 19 日に任期満了を迎えるため、新制度のもとで町長から提案された 14 氏を 6 月定例会で任命することに同意しました。任期は 3 年です。



住所 平群町上庄
北川 雅史 氏



住所 平群町信貴畑
向井 正治 氏



住所 平群町久安寺
瀧本 政司 氏



住所 平群町福貴畑
松村 容嘉 氏



住所 平群町椿井
森田 明男 氏



住所 平群町三里
吉川 平一 氏



住所 平群町櫛原
辻本 貴子 氏



住所 平群町福貴
的場 宏之 氏



住所 平群町櫛原
森田 祥史 氏



住所 平群町榎原
植田 悦治 氏

農業委員会委員の認定農業者過半数要件の例外規定適用についての同意

農業委員会等に関する法律では、市町村長は、農業委員を任命するにあたって、認定農業者等が農業委員の過半数を占めるようにしなければならないとしているが、区域内の認定農業者が少ないなど委員会構成が困難な場合、例外規定を設けている。平群町の認定農業者は 27 名のため、この例外規定を適用するためのものである。



住所 平群町椿井
森田 善友 氏



住所 平群町西宮
植山 勝 氏



住所 平群町福貴畑
中尾 静子 氏



住所 平群町吉新
上田 剛 氏



住所 平群町梨本
三好 慶男 氏

公平委員会委員



住所 平群町榎原
三崎 啓恵 氏



住所 平群町信貴畑
梅本 利政 氏

教育委員会委員

教育委員会委員2氏と公平委員会委員1氏の任命について同意しました。

平群町議会 議会中継

開催年: 平成29年

定例会 3月
6月
臨時会 5月

お問い合わせ先
平群町議会事務局
〒630-0505
奈良県生駒郡平群町吉新1-1-1
TEL: 0745-45-0012
FAX: 0745-45-0012

平成29年第3回定例会
6月13日(火)
一般質問

発言者	発言内容	映像
1 馬本隆夫議員	1 平群町寄場火葬業務及び修繕業務について 2 平群町防災行政無線は大丈夫か 3 中学校、及び2小学校に空調機器の設置を 4 (仮称)矢田山に東西幹道路を 5 公共交通空白地域の解消について	[映像] 00:27:26
2 城内敏之議員	1 「まち、ひと、しごと」施策の進捗状況 2 高齢者社会への提案	[映像] 00:27:39
3 窪和子議員	1 竜田川駅の早期バリアフリー化を 2 数字補助の入学支援などを可能にする対応を 3 がん検診の受診率向上のため、個別検診の受診改善を	[映像] 00:43:01
4 下中一郎議員	1 平群町第5次総合計画の見直しについて	[映像] 00:27:01
5 山口昌亮議員	1 可燃ごみ減量へ生ごみ堆肥化の推進を 2 くらもと団地の管理について 3 今年度採用職員の昇給ルール改善の撤回を 4 権原地区の農地への土砂不法投棄の早期改善を	[映像] 01:07:19

日程表に戻る ページトップへ

平群町議会事務局

町議会をネットで傍聴出来ます

平群町議会は、本議会の模様をインターネットで平成26年9月議会から録画配信しています。町のホームページからアクセスできます。

町政を問う! 一般質問一覧

山本 議員	1.平群町自主防災組織の育成について 2.「第2次財政健全化計画」について	馬本 議員	1.平群町斎場火葬業務及び修繕業務について 2.平群町防災行政無線は大丈夫か 3.中学校、及び2小学校に空調機器の設置を 4.(仮称)矢田山に東西線道路を 5.公共交通空白地域の解消について
植田 議員	1.準要保護世帯への就学援助制度の充実を 2.高齢者の足の確保の充実を	城内 議員	1.「まち、ひと、しごと」施策の進捗状況 2.高齢者社会への提案
井戸 議員	1.平群町の買い物はヘタ?購入価格決定の基準は? 2.戦略的に防犯カメラを設置し、対外的な安全PR宣言を	窪 議員	1.竜田川駅の早期バリアフリー化を 2.就学援助の入学前支給などを可能にする対応を 3.がん検診の受診率向上のため、個別検診の受診改善を
森田 議員	1.駅周事業区域の周辺も含めた整備は 2.町県民税・固定資産税等の納税方法について 3.役場本庁舎敷地内の全面禁煙は問題ないか	下中 議員	1.平群町第5次総合計画の見直しについて
高幣 議員	1.マスコミと上手につきあえる平群町へ 2.国民文化祭準備の進展状況と障害者芸術・文化祭について 3.奈良県一の長寿の具体的な内容を	山口 議員	1.可燃ごみ減量へ生ごみ堆肥化の推進を 2.くろもと団地の管理について 3.今年度採用職員の昇給ルール改悪の撤回を 4.樺原地区の農地への土砂不法投棄の早期改善を
稲月 議員	1.廃棄物減量について 2.幼児保育における国旗・国歌について		

平群町自主防災組織の育成について



山本 隆史

質問

私たちは日頃より、住民さんが安全で安心して日常生活を過ごすことの出来るまちづくりに努めております。

平成7年1月17日に発生した阪神・淡路大震災を検証したところ、行政がなし得た役割はごくわずかであり、最も機能したのは地域住民だったことが判明しております。

①平群町での防災組織新設や継続活動における補助金制度は。

答弁

②全国の世帯に占める自主防災組織の組織率と比較し、平群町の現状は。

①平群町では、各大字・自治会における自主防災組織の結成を進めており、新規に結成した年度に限り、補助対象事業費の1/2以内、かつ上限20万円の補助を行っております。また、結成後の翌年度より補助申請をしていただいた自主防災組

織に対し、5万円プラス世帯数に50円を掛けた合計金額を上限とし補助金を交付しております。



②全世帯数7929世帯に対し、組織結成世帯数は6141世帯の77.4%で、全国平均の81.7%より4.3%低く、未結成の大字・自治会へは啓発活動を引き続き行い、結成率100%を目標に努めて参ります。

準要保護世帯への 就学援助制度の充実を



毎議会のように取り上げてきた問題です。経済的に困難な家庭の子ども達が、安心して学校で学ぶ一助として就学援助制度があります。近年、小中学校の入学準備金が本来の入学準備時期に支給されるよう全国的にも改善が進められてきています。王寺・上牧・河合・三郷町なども3月以前に支給を切り替えています。30年度の入学準備

質問



植田 いずみ

備金は29年3月以前に支給できるよう改善を求めます。

また入学準備金の国基準（小2万4700円→4万6000円・中2万3550円→4万7400円）への引き上げについても、王寺・上牧・河合・広陵・三郷・斑鳩町が29年度から引き上げを決定しています。費用としては70万円程度です。平群町も29年度からの対応を求めます。

答弁

支給時期については、30年度小中学校へ入学される児童・生徒から1月の就学通知時に申請用紙を同封、1月末を提出期限とし前々年度所得で審査し3月支給をおこなっていききたい。29年度から金額の国基準への引き上げは大幅に負担が増えることから30年度から対応していきたい。

町の買い物はヘタ？ 購入価格決定の基準は？



井戸 太郎

質問

平群町が商品を購入するには様々な方法がある。その中の随意契約に着目した。

町財政は大変厳しく、少しでも安く購入すべきだが、粗悪品はダメ、公平性の観点も大事。その上で、「良いものを安く購入する」必要がある。しかし、市場価格よりもかなり高く購入しているように思ふ。

で検証した。業者により価格が全く異なっていた。また、定価がないものは販売業者の言い値になることもあった。

さて、市場価格、ネット販売価格、店頭販売価格、標準価格、定価、他

市町村の購入価格など、様々な「価格」がある。そこで、お聞きしたい。

①町の随意契約、購入価格に関しての考えは。

②購入価格決定の基準

答弁

①仕様書による設計価格の設定や参考見積もりを取り、予定価格を決定し、業者を選定する。

②予定価格の範囲内で最低価格の業者を基準にする。また、発注基準に応じて各課の判断で対応している。井戸議員提案の「市場価格データベース化による情報共有」「見積もりの二重検索」は、現状難しいと考える。



町県民税・固定資産税等の 納税方法について



森田 勝

質問

町県民税、固定資産税、軽自動車税の住民の町への納税方法は、ペイジー、銀行持参、PC等のマルチペイメントネットワーク(MPN)、コンビニ、銀行口座引き落としの3つ方法を導入して、住民の利便性を図っている。

この支払い方法によって、町が銀行等へ支払う手数料は1件当たりMPN)は51・84円、コンビニは65・88円、銀行口座



引き落としは10・80円と違う。また軽自動車税以外の町県民税・固定資産税は4回の分納と1回の全納の方法がある。

町財政が厳しい状況下、住民に納税方法を銀行振り込み、また納税回数を含納(1回)に協力要請しては。

特に、納税方法を銀行引き落としにしても、住民の負担はない。

答弁

平成27年度実績で算定すると、MPNやコンビニ納税から銀行口座引き落としに変更していただくと155万円、また納税回数を4回から全納(1回)払いに変更していただくと35万円、計190万円町の負担が軽減されることから、今後住民に納税方法等による町の経費削減効果をご理解いただき、協力をお願いして参りたい。

国民文化祭の進展状況と 障文化祭について



高幣 幸生

質問

本町は、この国民文化祭を利用し奈良県だけでなく日本全体に平群を売りだすチャンスの切っ掛けではないか。この国民文化祭を利用して本町の狙いを作る。

また、国文祭の交通アクセスは。会場は公民館とスポーツセンターと聞くと交通アクセスは。次に本町では毎年の文化祭や農・食関係の収穫祭を如何に発展させるか。

答弁

交通アクセスはシャトルバスの運行を考えている。国民文化祭では、県



内外の人のため、町農産物を全国に発信する機会と考え、平群の高品質の小菊、バラ、イチゴ、ブドウのPRをしたい。

先日、なら100年会館での「国文祭障文祭なら2017」100日前イベントで生産者協力で「小菊」や「バラ」のプレゼント等、また、平群の農産物を食材に「おかず味噌」や「イチゴジャム」の試食販売でPRを行った。

国民文化祭の開催に収穫できる夏秋期の生産量日本一の「平群の小菊」を全国に広めると共に、平群の農産物の加工品や特産品の販売等、平群の農食文化をより効果的にPRを考え検討したい。

幼児保育における 国旗・国歌について



稲月 敏子

質問

本年2月、文科省は「幼稚園教育要領」改定案を発表。厚労省は「保育所保育指針」改定案に3歳以上児について「行事において国旗に親しむ」「国歌、唱歌、わらべうた・・・に親しんだり」と記載した。両省は来年度実施としているが、本町ごども園ではどう対応をとるのか考えは。

「君が代」は「千年も永遠に天皇の統治が続くように」と解釈されている。



る。「国民主権」を宣言した「日本国憲法」とは真逆の内容であり、承服できないが、この問題は別にしても幼少期の子どもに理解不能な歌詞や親しみにくいメロディー、「国の理解」など幼児教育に持ち込むことに問題がある。職員や行事で保護者へ押し付けることがないように求める。

答弁

本町ごども園は幼保連携型認定ごども園教育・保育要領に基づいており、保育指針や幼稚園教育要領との整合を図る形で改定案がしめされた。平成30年度以降についてはごども園と協議が必要。

国歌についてはあくまで「親しむ」という観点であり、「教える」「歌わせる」と言った押し付けるものではないという認識をもっている。

中学校、2小学校に 空調機器の設置を



馬本 隆夫

質問

学校施設は子供たちの学習・生活の場であり、より良い教育活動を行う施設でなくてはなりません。

平群小学校が、大規模改修時に空調機器を設置すべきと、強く要望した結果、設置されました。平群小は、良い教育環境となりましたが、中学校・北・南小学校では普通教室の温暖化対策として扇風機が設置、子供たちにとっては良い教育環境施設

設とは言えません。

各学校に空調機器を設置すべきと、H25年12月議会で質問をしました。担当課長は、「厳しい財政状況であり年次計画を



策定、又、優先順位は、中学校、北・南小学校」と回答されました。

答弁

現在、北小学校では暖房にボイラを使用、燃料は大型地下タンクが設置され約40年を経過、法的にタンクを改修せねばならない時期であります。又、老朽化した配管、ボイラ、暖房器具等も更新が必要となります。タンク等の工事を行わず、空調機器を設置すべきであります。

公平な教育環境を作っていかなければと考えております。北小にエアコンを設置する方向で考えてまいります。

「まち、ひと、しごと」 施策の進捗状況



城内 敏之

質問

平成28年3月の、『平群町人口ビジョン』によると、2030年には、317人が、様々な施策誘導により、増加が見込まれ、合計特殊出生率は2・07と設定しています。今年度からの「第3次へぐりのびのび子育てプラン」についてお聞きします。

また、「定住化促進策」のその後の状況を聞かせてください。

空き家と同じく「休耕地」もふえていると聞き



答弁

ます。若い就農者を効率よく定着させるため何か手を打っておられるのかお尋ねします。

第3次へぐりのびのび子育てプラン」の策定母体には「平群町子どもの心の健康づくり普及推進委員会」があり、住民代表の他、保健・医療・福祉・教育の各行政担当者と日々の密接な連携と適切な情報共有、協働がプラン実施の要と考えています。

平成26年4月に「定住促進奨励交付金」制度を創設し対応に努めてきました。効果的に実施するために町のイメージである「へぐりの良好な暮らし」を広くアピールしてまいります。

町内での雇用創出の場として、新規就農者の受け入れを行い、平群の品質の高い農産物の生産に努めます。

竜田川駅の 早期バリアフリー化を



窪 和子

質問

竜田川駅は、駅員不在及び改札からホームまで11段の階段のため、高齢者の方や障がいをお持ちの方、またベビーカーを利用されている方などが安心して利用できない現状です。

以前より近隣自治会からもバリアフリー化などを求める要望が提出され、私も幾たびもスロープや簡易エレベーターの



設置などを一般質問し提案する中、担当課も近鉄本社と協議を行われてこられました。バリアフリー化が進んでおりません。

答弁

そこで、早期バリアフリー化を推進するため、狭隘な駅敷地面積も考慮し、段差解消のためのスロープ設置については大規模改修を伴うものではなく「小規模なスロープの設置」をすることが、工事費も少なく極めて合理的改善であると考えまう。がいかがでしょうか。

今回、提案を頂いた駅構内における「小規模スロープ」の設置事例の有無や施工方法、費用をはじめ、安全確保について慎重に検討・調査を行い、近鉄本社とできるだけ早い時期に協議し、実現可能であれば積極的に進めてまいりたい。

第5次総合計画の見直しについて



下中 一郎

質問

平成25年策定の第5次総合計画は、平成34年までの10年間という長期的な目標を示すものであるが、めまぐるしく変わる社会、経済情勢に対応するため、5年単位として前期と後期に分けられています。

本年度は、前期基本計画の最終年度であり、5年間の実施状況を検証した上で、後期基本計画の見直しをする年である。検証作業を進めるにあ



たり、最も大切なことは、目標値の達成度だけでなく、実施事業にかかる組織、人員、経費、課題など、その過程を精査することである。その検証結果をいかにして後期計画に組み入れ、生かしていくかが問われます。

今年度実施予定の後期基本計画の見直し策定作業をどのような手順、方法で進めていくのか。

答弁

目標指標で定めたそれぞれの施策については、その進捗に向けた課題等を精査した上で「総合計画検証委員会」において報告、検証を行い、一定の方向性や精度が高まった時点で「総合計画推進連絡協議会」における協議を経て、公表するとともに、次年度の早い時期を目途に後期基本計画の見直しをしていきたい。

可燃ごみ減量へ 生ごみ堆肥化の推進を



山口 昌亮

質問

清掃センターの焼却炉建設から25年が経過し、今後の方針を策定する時期にきているが、町の考えは。

焼却炉の単独設置は現実的ではないことから、広域での建設が民間への委託かのどちらかになる。どちらにしても、財政面からも燃やすごみを極限まで減らすことが求められる。最も効果があるのが生ごみを焼却処分しないことだと考える。



その方策として斑鳩町のように生ごみの堆肥化をすすめることが大事と考えるが、町が庁舎で実験している「キエーロ」が

効果を発揮するなら、それを普及することも考えるべきだ。

いずれにしても、焼却ごみをとことん減らすことは緊急の課題。町の見解は。

答弁

焼却炉の今後は、広域連携の勉強会にも参加しているが、民間委託も検討材料と考えている。

ごみの現状とどうすれば減量できるかを住民に知らせ、処理経費を減らすために焼却ごみを減らすことが大事と考える。

そのために、堆肥化の推進と紙類の分別資源化を住民の協力を得てすすめていきたい。

県議長会研修に参加して

去る7月5日、奈良県町村議会議長会の正副議長研修が県市町村会館にて開催されました。

毎日新聞政治部デスクを務められた後、現在、毎日新聞専門編集委員でありテレビ・ラジオの報道番組でコメンテーターとしても活躍されている、与良正男（よう・まさお）氏のお話を聞きました。

講演では、これから政治・経済のゆくえと題して、東京都議会選挙での自民党の歴史的敗因についての分析や、自民党の現状の問題点、メディアによる森友学園、加計学園問題の二重ス操作、政治への加担問題についてもお話を頂きました。

また、東京都議会選挙では都民ファーストの圧勝という結果

となりましたが、二元代表制である地方議会で、多数を占める議員の政党の長が首長であるというのは違法ではないですが、すべて首長の思いのままになつていくという事になり、本当にそれで良いのかというのが今後の東京都、または地方議会、地方政治のあり方としての課題であり、みなさん方も考えて頂きたいとお話を頂きました。

山田 記



編集後記

神戸港で招かざる客である新たな外来生物が発見されました。南米原産のヒアリ（火蟻）と中米原産のアカカミアリです。

ヒアリは、攻撃性が強く刺された場合、体質によってはアナフィラキシーショックを起こす可能性があるなど人体にとって危険な生物です。

平群町内で確認されている外来生物では、毒を持つオーストラリア原産のセアカゴケグモや、農家に深刻な被害をもたらす北米原産のアライグマがいます。

他にも、国内で発見された外来生物はたくさん存在し、その大半が「悪者」扱いされていますが、彼らからすれば迷惑な話です。

おもてなしの日本にわたのは彼らの意思ではなく、人の手によつて持ち込まれた訳でありますから。

山本 記



町 の 話 題



小・中学校囲碁団体戦全国大会に出場する 平群中学校囲碁部

今年14回目を迎える「文部科学大臣杯小・中学校囲碁団体戦」全国大会（7月30、31日＝東京）に中学校の部の奈良県代表として平群中学校囲碁部が出場します。

全国大会には地方大会を勝ち抜いた64校が出場します。各チームの主将、副将、三将の3人がそれぞれ対局し2勝したチームの勝利になります。平群中学校囲碁部の全国大会出場は8回目。過去7回はすべて初戦に勝利し、ベスト16も経験しています。

平群中学校囲碁部の部員は15人。今回の全国大会に出場する大西琉来矢君、井上涼雅君、沖田最乙君（いずれも3年生）をはじめ、全員が中学校に入学してから囲碁を始めました。部活動は、顧問の岡田知也、森口洋一両先生の指導のもと、平日の放課後の2～3時間、部員同士の対局や詰め碁などで力をつけています。また、平群町中央公民館の大人の囲碁クラブや関西棋院でのアマチュア大会にも参加しています。部活動を見学して入部したという1年生の女子部員は「対局が楽しい」と話してくれました。

主将の大西君は「（全国大会への参加に）ちょっと緊張している。あまり力まずに平常心で臨みたい。まずは初戦突破」と決意を語っています。（山口記）